

ディスカッションによるリスク管理能力向上への取り組み

たまき青空病院 桑内 奈々（理学療法士）

- リハビリを行う職員の持つ不安について経験年数で分けアンケートしている。少人数で全員が主体的に参加する場を設け、結果を踏まえたディスカッションや伝達講習を行いリスク管理の意識向上と技術の共有を図った報告である。部内のリスク管理能力向上、技術の向上に繋がり有用であるとする報告である。
- 回復期リハビリにおけるリハスタッフの経験年数が、リスク管理にどの程度影響するか、差異があるとすれば改善する対策について検討した報告である。また、共通して急変時の不安についても取り上げている。経験年数に関わらず、転倒転落が多いこと。患者に装着している器機の管理配慮は、経験の長いスタッフで高い事が分かったとしている。スタッフがグループで協議する機会をもちレベルアップに繋がる事を示した報告である。多職種とも情報共有の場を広げて欲しい。
- 一つの職種を通して患者と向き合う時に課題と解決策は様々だが経験年数が豊かであるほどその幅は広いであろう。経験の浅いスタッフと実技を交えてディスカッションすることは非常に有意義だと思う。そしてどの職種についても共通されるべき手法だと思われるため他職種に広めて欲しい。
- 指導しなければならない側、指導される側の双方が医療の安全を意識できる非常により取り組みですね。経験の浅い職員はどのような行動を危険と感じているのか、またどのようなことには感じていないのかを知ることは、管理する側にとっても非常に重要です。臨床現場では、新人職員などは、どんな場면을怖いと思っているかを自分からなかなか言い出せないものですから、このような場を設けることは非常に意義深いと感じます。
- 発表お疲れさまでした。当院でもリハビリ中に点滴抜去やバルーンカテーテルが引っかかってしまったなどの症例は存在しています。日常のリスク管理は重要だと感じました。質問をするとしたら、リハビリ職員を経験年数5年で分けた理由はお聞きしたいです。当院では秘密ですが10年以上より3年目の職員の方が、リスク管理が十分できていた場合もありましたが。